

## 再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課  
担当課長名：服部 卓也

事業名	空港・港湾等アクセス道路 都市計画道路 黒井藤野新田線 (直江津港アクセス)	事業区分	街路	事業主体	新潟県
起終点	自：新潟県上越市頸城区西福島 至：新潟県上越市福橋			延長	0.9 km
事業概要 本路線は、上越市にある重要港湾である直江津港を起点とし、新潟県南部産業団地を經由して国道18号を結び、関東、北陸、長野方面に連絡する広域的な環状道路である。					
H17年度事業化		H10年度都市計画決定		H19年度用地着手	
H28年度工事着手					
全体事業費	57億円	事業進捗率	92%	供用済延長	—
計画交通量	10,200台/日				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 25.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 3.7 / 69億円 事業費：2.9/68億円 維持管理費：0.8/0.8億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 95 / 95億円 走行時間短縮便益：76/76億円 走行経費減少便益：15/15億円 交通事故減少便益：4.6/4.6億円	基準年	令和4年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.6 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=21.7~29.9 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.3~1.5 (事業費±10%) 事業費：B/C=23.7~27.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.4 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=24.6~25.5 (事業期間±20%)					
事業の効果等 ①産業拠点へのアクセスルートの形成 ・国道8号や北陸自動車道から、県営南部産業団地及び上越テクノセンター等の産業拠点へのアクセスルートが形成され、物流の効率化が期待される。 ・物流効率化による新たな企業立地の促進が図られ、地域産業の活性化に寄与する。 ②直江津港へのアクセス性の向上 ・北陸自動車道上越インターチェンジから重要港湾、日本海側拠点港(LNG部門)である直江津港へのアクセス性が向上し、直江津港の利用促進が期待される。 ③交通混雑の緩和 ・国道8号や国道253号に集中している交通の分散が図られ、朝夕ピーク時の交通混雑の緩和が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見 【上越市】 ・重要港湾である直江津港などへのアクセス向上による物流の効率化や、並行する国道8号の渋滞緩和、交通事故の減少が見込まれることから、早期の整備をお願いします。					
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・南部産業団地の利用率が前回評価時(令和元年度)の78%から89%(令和4年8月現在)と企業立地が進んでいる。 ・直江津港のコンテナ取扱量は、増加傾向にあり、令和元年に過去最高(37,200TEU)を記録。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・事業進捗率は92%、用地取得率は100%。					

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・ 今後、道路改良工や舗装工等を実施し、令和5年度中の道路供用を目指して事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

・ 建設発生土の転用などにより、資源の有効活用とコスト縮減に努めている。

対応方針

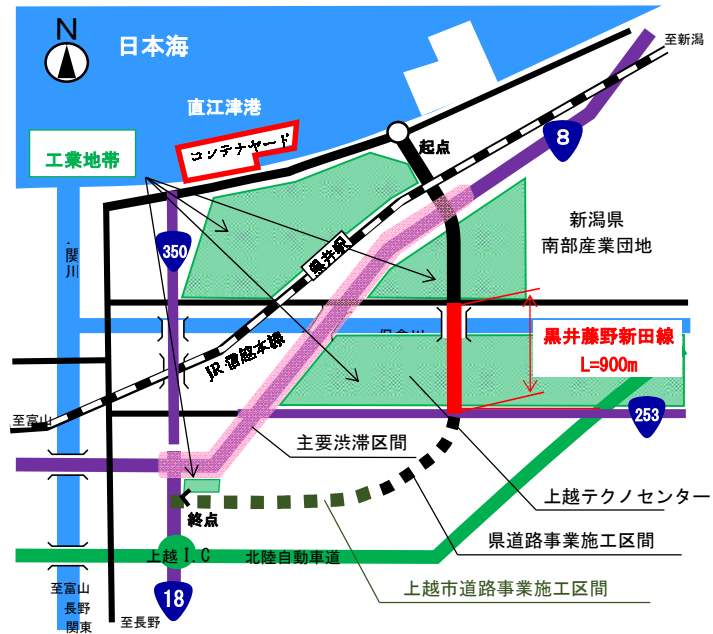
事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図

【位置図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。